

眩しいくらいの青い芽が、無意識のままに大きく育っていた。すべて一つずつ丁寧に、汚れないように、私だけのアルバムに仕舞った。

そして心に閉じ込めた。

誰に語ることもないまま、温度を失ってしまった。

いつかの日に溶かしてまた、味わってみたい。あの瑞々しさと、甘酸っぱさを。私はもう、お洒落なパンケーキなんて一枚食べるのだって精一杯だけ。